

# 南山短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 南山短期大学の概要

設置者	学校法人 南山学園
理事長	ミカエル・カルマノ
学 長	谷川 義美
A L O	市瀬 英昭
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	愛知県名古屋市昭和区隼人町19

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語科		250
	合計	250

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

南山短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育目的や教育目標を実現するために、具体的な施策が定期的に検討されている。特に、新入学生の不安を取り除き、目的を明確にさせるための行事である対面式や合宿研修は有効に機能している。また、学科の教育目標に従い、「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」の3系列による専門教育のカリキュラムが導入されており、体系的学習によりその目標や目的の達成に配慮されている。この3系列の取組みは評価できる。

授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっている。全体として、よくまとまった教育課程が編成されている。また、授業内容、教育方法改善に対して十分に配慮されている。

機器・備品の整備システムは確立し、授業用の機器・備品も備わっている。短期大学設置基準を超える広い面積を有し、学生に対して適切な環境が整備されている。

就職者数も多く、また卒業後、ほかの四年制大学へ編入する学生の質の高さから当該短期大学の教育目標が充分達成されていると考える。

学生受け入れ、学習支援も、組織として体系的に行われている。また、学生生活支援として、健康面や課外活動、奨学金などの配慮が適切に行われている。進路支援は、就職や進学の両面にわたる支援が充分に行われており、例年、高い就職率の確保がみられる。社会人や障害者の受け入れなど、特別な支援も積極的に行われている。

教員の研究活動は成果を上げており、大学の紀要とウェブサイト上での研究活動の公開も行われている。科学研究費補助金の取得もあり、ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修会も奨励されている。また、研究経費の規程の整備、研究成果発表の機会の確保、研究に係る機器、備品、図書を用意、個人研究室や共同研究室の整備、研修日の設定により、研究活動活性化のための条件整備が行われている。

コミュニティ・カレッジ、外国語研究センターの「定例講義」、高校や県教育委員会との連携による「高校生英語オーラル・インタープリテーション・コンテスト」などの開催により、社会的活動への取組みが推進されている。また、建学の理念に基づき、学生のボランティア活動、地域活動が行われるなど、学生の社会的活動が促進されている。さらに、ボランティア活動や交換留学提携により、国際交流・協力への取組みの努力がみられる。

理事会、教授会組織が有効に機能し管理運営されている。

学園内で統一的に施行されている経理関係諸規程、基準などにより、予算編成から予算執行まで適正に行われている。また、平成17年度より、学園、監事、公認会計士の三者による意見交換会を定期的に行き、学園の会計および業務の適正な執行について協議している。

財政の安定化を図るため、平成17年度50名の定員増を行った結果、定員充足率もほぼ適正なものとなった。また、現在の学科科目3系列を見直し四番目の系列が検討されている。さらに、中期計画として5年以内に新学科設置の可能性についても検討している。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

フィリピンのストリートチルドレンに対する募金、チャリティコンサート、ベタニア合宿、ホームレスへの炊き出し支援など、キリスト教精神に基づく組織的な実践活動は優れている。

評価領域 教育の内容

教養教育における「音声表現」、「身体表現」、「造形表現」など芸術系の科目の設置、「情報機器の操作」という時代のニーズに合致した科目を設置し、創意と工夫による学生の自己表現能力の伸長などに役立っている。こうした独自のカリキュラム編成は高く評価できる。

評価領域 教育の実施体制

利便性のある閑静な場所に学園があり、教育環境に恵まれている。英語科専科という点から配慮して、オーラルイングリッシュの指導のため多くのネイティブ教員が配置されている。国際性という教育目標とも合致し、指導グループの充実の評価すべきである。なお、交換留学についても努力がなされている。

教員による教材作成が熱心に行われている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

広報委員会が高校生向けに作成している「南短のほんとうのほんとう」における学生の満足度の集約とその結果の公開は適切である。これは後輩受験生へのメッセージとともに、学生の本音もかかれ、短期大学の評価のひとつである。

評価領域 学生支援

入学予定者への授業見学会、成績不振者へのチュートリアル時間の設定、学生生活支援としての「コミュニティアワー」プログラム、学生有志のボランティアによる障害者支援など、特色ある支援活動を実施している。

評価領域 研究

通常の研究費に加えて教員の研究を奨励する基金として、「フラッテン研究奨励金」があり、毎年度3名～5名が助成されており、成果もみられる。

評価領域 社会的活動

県教育委員会後援の「高校生英語オーラル・インタープリテーション・コンテスト」、建学の精神に基づいた学生の諸分野におけるボランティア活動を行っている。

評価領域 財務

財務は健全であり、財務情報はウェブサイトと広報誌に掲載し広く公開されている。

評価領域 改革・改善

相互評価や自己点検・評価などの結果を受け、改革・改善に取り入れている。

## (2) 向上・充実のための課題

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神、教育目的・教育目標などを達成させるためには、「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」という3つの系列の内1つの系列のみによるのではなく、全人的教育観に立って、ほかの系列からも学ばせることを検討されたい。なお、建学の精神・教育理念を具現化するためにも学生の自主的な参加かつ積極的な企画が行われることが望ましい。

評価領域 教育の実施体制

新入生を対象とした図書館ミニツアーは評価できるが、参加者の増が望まれる。また、南山大学図書館とのデリバリーサービスの促進も望まれる。

教員の年齢構成に配慮されたい。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

評価の観点か、目標到達度に対する評価か、到達経過の評価か、獲得知識の評価か、表現・伝達技能などの評価か、という全学的な評価基準の在り方に対する検討とその集約による教員間の評価基準の在り方について検討されたい。

評価領域 管理運営

監事の業務監査には、教学の運営も含めることを今後検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「キリスト教世界観に基づき学校教育を行う」という建学の理念を基軸として教育理念を周知、理解させるため「キリスト教学」を必修科目とし、総合的に全人的な教育が行われているところに特色がみられ明確に示されている。

教育目的・教育目標については「ガイドブック」、「学生便覧」、「南山キリスト教教育センター通信」などで周知している。また学生にも入学式、対面式などで周知されており、定期的な点検が「自己点検・評価委員会」の場で随時行われている。

ミッションスクールならではの行事や施策が多くあり、これらが教育目標など実現し共有するために活用されている。

### 評価領域 教育の内容

設置された学科・専攻の教育課程に、建学の精神や教育理念が適切に反映され、教育課程改善への意欲も充分であり、組織的な対応もなされている。

設置された学科の教育課程には免許・資格などの取得への配慮が適切に行われており、教育課程の授業形態もバランスがとれている。授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっている。全体として、よくまとまった教育課程が編成されている。「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」の3系列の取組みは評価できる。また、授業内容、教育方法改善に対して十分に配慮されている。

教員間の統一が望まれるが、シラバスの代わりに講義概要などが作成され、授業の概要

を示す十分な内容を有している。それぞれの授業には教科書、参考書などが用意され、また参考文献などが十分に示されている。

授業評価は定期的に行われ、教職員全員参加のFDが年2回実施されている。また外国人教師による定期的なFDも実施されている。それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲が高く、その努力が図られている。

#### 評価領域 教育の実施体制

教員の高齢化（平均年令53才）はみられるが、反面、このことが指導面においてはベテランで指導技術に熟達しているため、プラスになっている所もある。

校地および校舎面積とも短期大学設置基準の規定を充足し、校舎の整備も良好で、快適な環境を学生に提供している。また、障害者の受け入れも行われ安全性にも配慮している。

図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数および座席数などは、在籍学生数に比し適切であり、年間の図書購入予算も充分である。

アメリカのカトリック5大学との交換留学提携など国際交流にも熱心である。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

それぞれの授業の単位認定の方法は適切に行われているが、学生の成績評価のシステムやその評価方法と基準、結果の講義へのフィードバックなどが教員個々人の主体性に任せられているので、統一的なものにすることが望まれる。また知識、情報、結果などの共有による授業の内容とレベル、評価システムなどについて相互に検討と見直しを行うことが望ましい。

学生の就職の割合は充分である。また四年制大学へ編入する学生は、短期大学2年間で鍛えられ高いレベルに達している。このことは評価に値する。

#### 評価領域 学生支援

入学に関する支援として組織的な取り組みが行われている。（例、オープンキャンパス、入試相談会、私立大学展など）

組織として体制的な学習支援が行われている。（例、ガイダンス、補習授業、悩み相談、進度別相談など）

学生生活支援について適切に行われている。（学生委員会、指導教員による援助、学生相談室、保健室による相談）

就職、進学の両面にわたる支援が、充分に行われている。

社会人や障害者の受け入れなど、特別な支援を積極的に行っている。

#### 評価領域 研究

研究活動は、充分に行われている。研究業績、国際的活動、社会的活動などに多くの教員が参加し、成果をあげている。また、その活動状況も公開されている。

研究活動のための環境整備は行われている。研究図書費、教育研究補助費、研究出張旅費のほか、各教員の申請に基づいて助成されるフラッテン研究奨励金などがある。

科学研究費補助金の取得もあり、FD研修会も奨励されている。また、研究経費の規程の整備、研究成果発表の機会の確保、研究に係る機器、備品、図書などの用意、個人研究室や共同研究室の整備、研修日の設定により、研究活動活性化のための条件設備は行われている。

#### 評価領域 社会的活動

地域社会との連携と交流が適切に図られている。(例、卒業生のための定例講義、高校生のためのオーラル・インタープリテーション・コンテスト、一般社会人のためのコミュニティ・カレッジなど)

ボランティア活動、地域活動、地域貢献が積極的に行われている。

外国人への日本語指導を含むボランティア活動、交換留学提携などにより、取組みの努力がみられる。

#### 評価領域 管理運営

寄附行為の規定に基づいて理事会(年6回)、常務理事会(週1回)、学内理事会(月2回)が開催され、学校法人の意思決定機関として管理運営体制が確立している。

教授会はおおむね月1回開催(平成17年度は年間14回開催)され、学校運営の重要事項を審議、決定している。また、学長を委員長とする「運営委員会」で学校の方針、運営に関する事項について協議、企画立案、問題提起を行い、教授会に提案するなど運営体制は確立している。

学園には、法人事務局と各設置校にそれぞれ事務組織があり、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動などは法人全体で行われている。短期大学事務室には、専任職員、専任嘱託職員、特別嘱託職員がそれぞれの就業規則、臨時職員は臨時職員規程により適宜雇用されている。

教育職員の年間担当時間数は週6コマを基準に調整されている。事務職員は就業規則による勤務時間を基準としているが、超過勤務時間は縮小傾向であるが存在する。健康管

理は、年1回定期健康診断、毎月1回学校医・産業医による健康相談日を設けるなど適切に行われている。

#### 評価領域 財務

中・長期計画に基づく事業計画、予算編成方法などが確立されており、予算執行も適切に行われている。なお、資金の管理と運用は法人本部が行っている。

主要項目の財務比率は全国平均と比較しよい比率を示しており、財務体質は健全である。施設設備は耐震工事、アスベスト対策、バリアフリー対応などが実施され、環境整備は十分に管理され適切に行われている。

#### 評価領域 改革・改善

教育活動、教育組織、学術研究、管理運営などについて、適切な自己点検が実施されている。

29の委員会が設置され、各委員会は担当分野の改善・改革について検討している。平成15年度から学園に内部監査制度が導入され、監査対象校はその監査結果に基づき適切な改善を行っている。

平成12年度、13年度に上智短期大学と相互評価を実施し、その評価結果を受け、教育や運営に改善の取組みがみられる。

単一学科のため、財政の安定化に向けて平成17年度50名の定員増を行い、定員を充足する入学者数を確保している。また、現在の学科科目3系列を見直し四番目の系列が検討されている。さらに、中期計画として5年以内の新学科設置の可能性についても検討するなど改革・改善に努力している。